

## <枚方宿寸話>

### 2. 堤町裏は石垣の浜に

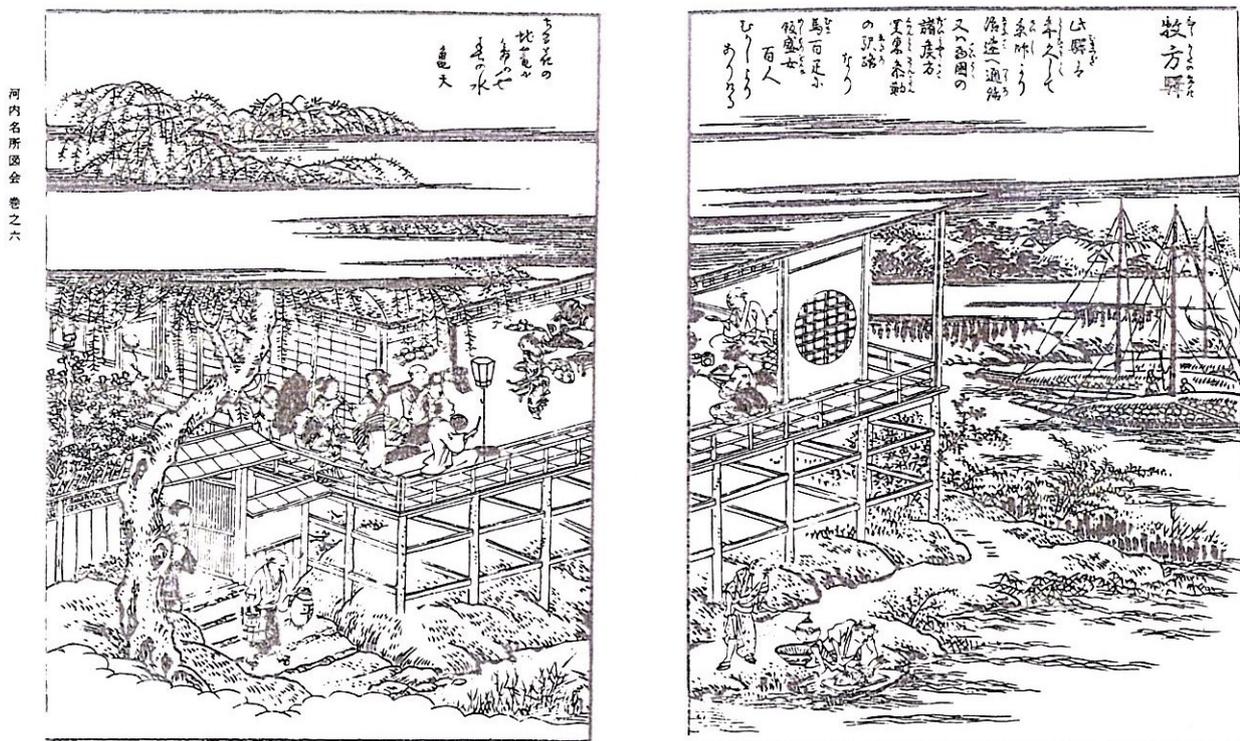
2023年3月13日

堀家 啓男

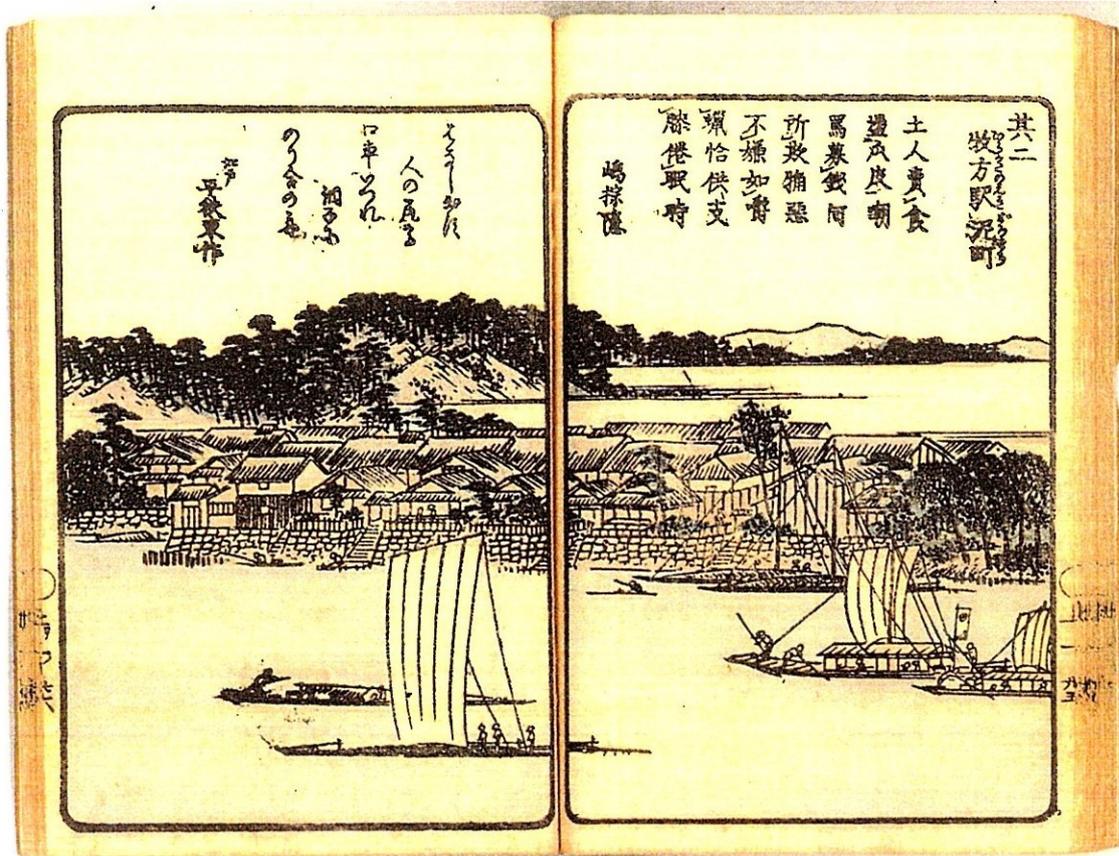
淀川の水位上昇は枚方宿内の町屋にも大きな影響を与えたようです。浸水や洪水から店舗や屋敷を守るため建物の床をかさ上げしたのです。鍵屋のある堤町裏の石垣化は19世紀以降のことで、浸水対策のためだったと思われます。

「河内名所図会」（享和元年 1801）の「牧方驛」の項に高床式の川座敷の絵がありますが、18世紀終わりまでは堤町にはこんな高床式の旅籠が並んでいたのでしょうか。しかし、60年後の文久元年(1861)刊行の「淀川両岸一覽」「上り船の部」をみると堤町の宿場街はすべて立派な石垣の上に並んでいます。明治のはじめ淀川の水深はわずか4、50センチだったということですから、旅籠が先を争って、浸水予防で床を上げ、高石垣を築いたものと考えられます。

(参考)市史年報第10号「近世後期における淀川水系の環境変化と天の川橋」馬部隆弘著



- ① 河内名所図会（1801年）「枚方驛」の図  
19世紀初めの枚方宿の淀川岸、建物裏、「川座敷」の光景。  
川辺に高床を組んで建てられている。



② 淀川兩岸一覽（1861年）

「其二 枚方驛泥町」の図

- ① の図から約60年後の枚方宿の旅籠街の裏。  
 建物はすべて高い石垣の上に建っている。